

改定

印南郡三十三所観音巡御詠歌

一 番 會 根 観音堂
観ずれば浮世のひかさ海山の松吹く風ものりの声々

二 番 會 根 円通寺
六塵のすみななれども円通寺眞如の月はくもらざりひり

三 番 會 根 臨川寺
人々の心を洗え臨川寺きよきながれに月や宿らん

四 番 大 塩 西光寺
一すじの誓いを頼むあま小舟西の光のさすにまかせて

五 番 的 形 海岳寺
海岳寺のほれば汗はわたつみの浪の風や涼しかるらん

六 番 福 泊 福円寺
福はただ願う心にあるうみのまどかに浮かぶ法の月影

七 番 會 根 圓徳寺
千年ぶる松のよわいと諸共に延ぶる命ぞ福徳のてら

八 番 的 形 萬望寺
かねのねも松吹く風も鳥のねも歌うも舞うも法の声々

十九番 志 方町 観音寺
様々に迷う姿も観音寺ちかいのうちにこもらぬはなし

二十番 谷 の 長樂寺
長き夜の眠りはさめぬ谷水の流れにあえば樂となりぬる

二十一番 高 畑 円福寺
圓かなる月の光は世の鏡うかむ心に福や來たらん

二十二番 細工所 安樂寺
折々は浮世のわざを観念し安樂世界の身ともならばや

二十三番 平小畑 長樂寺
はるぐと参れば心長樂寺生死長夜の夢はさめけり

二十四番 平 莊 報恩寺
後の世を助け給えや報恩寺まいる心を家づとにして

二十五番 池 尻 地藏寺
六の地を同じく藏む大菩薩みちびき給え二世安樂に

二十六番 宮 前 眞福寺
うわならぬ風吹くまに撃はれて永く眞體の月を見る哉

二十七番 清 水 観音堂
こごりたる心を洗うみ佛の法の清水にすがたうつして

二十八番 里 村 観音堂
遙々と都を出でてこの里の衆生の闇を照らすなりけり

九 番 西 原 西岸寺
いそげた浮世の中は假の宿西の岸をわが住家なれ

十 番 大 塩 清勝寺
野々すまてまれば心清勝寺浮世の原をばらう谷風

十一番 牛 谷 妙泉寺
行こえて取立れば妙泉寺たえなる清水前に流るる

十二番 福 井 新 村 雲 隠 院
見渡せば何う山せを吹下ろす浮世の原をばらう松風

十三番 福 后 安養寺
立寄りて座禪の床にやすらえば安養界の心こそすれ

十四番 北 宿 眞禪寺
面白や眞如の月はおのづから座禪の縁にかむなりけり

十五番 阿 彌 陀 不 断 寺
あいがたき御法にあや今更に不断忘れしこの寺の恩

十六番 阿 彌 陀 地 藏 寺
よこしまの心のきりや晴れぬらん正しき法の寺の松風

十七番 大 國 常 福 寺
常にただ心にかけて法の道これより外に幸いはなし

十八番 神 吉 常 樂 寺
よしやただ苦海をこえて常樂の弘誓の船に早く乗べし

二十九番 西 村 観音堂
松風や幾千代かけてみ佛の法のときわの声を尊とき

三十番 上 莊 常樂寺
朝日さす峰の光を今ぞ見る佛の恵み受けしこの身に

三十一番 米 田 西光寺
西の空かたむく月はさしもくさ光をたれて迎え導く

三十二番 梅 井 眞福寺
眞実の理を観ずれば諸々の幸い來たるこの寺ぞかし

三十三番 阿 彌 陀 時 光 寺
本よりもあまねく照らす西の空阿彌陀の宿の時の光ぞ

諸願成就廻向の添歌
諸願みち無量壽佛の御國にておいづるぬぐや心さやけき

この御詠歌は徳川時代からあるものについて、改定を加へ、
大正十三年十月一日より興願されたので、會根町円通寺の松田
榮直師がその御母堂と郡内をめぐつて新作もし、印南郡三十三
所めぐりを決定されたわけであつた。西神吉村宮前眞福寺岡恒
三師またこれに力を添えられ、爾米印南西国は隆昌を頼めたが
戦時中より引つづいて休止の状態にある。やがて復活する時節
が來ること信ずる。本身にこれを登載するについては、志方
村船江藤二氏、並に同村観音寺村上峰仙師、東神吉村常樂寺勝
山專明師、円通寺松田榮直師らに大へんお力添えを賜はつた。